

The image features a blue banner on the left with the Tohoku University logo and the text 'TOHOKU UNIVERSITY'. The background is a brightly lit hallway with a long row of mailboxes. The main title is written in large, bold, black Japanese characters with a white outline.

東北大学 業務のDX推進 プロジェクト・チームの挑戦

藤本 一之 小野崎 伸久
川上 翔 鈴木 翔太

国立大学法人東北大学
情報部デジタル変革推進課



大学のあらゆる活動
全方位DX

01
Technology



3つの基本方針

02
Organization

スピーディーで
アジャイルな
経営へ転換



03
Society

共創による成長

〔ステークホルダー
エンゲージメント〕



大野 英男 総長
2018年4月就任

先の読めない大変革時代の課題解決を先導、社会価値を創造



教育・研究・共創・経営の全方位DX

国籍・文化・価値観などの壁を
越えて世界と繋がる

分断や格差を越えて
インクルーシブに世界を繋ぐ

教育DX

AI・数理・データ科学
オンライン国際共修
学びのビッグデータ
クレデンシャル革新

研究DX

データ駆動型研究
国際頭脳循環
若手躍進イニシアティブ
革新的研究インフラ

共創DX

データによる価値創造
課題解決型キャンパス
スタートアップ加速
DX人材育成

経営DX

業務改革
人的資本経営
DEI*推進宣言
グローバル対応力



*DEI = Diversity, Equity & Inclusion



東北大学 業務のDX推進体制

プロボスト・CDO
理事・副学長 青木 孝文



事務機構長 伊豆 仁志



DXチーム統括
デジタル変革推進課長 藤本 一之



総長・プロボスト室

法務・コンプライアンス課

本部事務機構
各業務所掌
課・室

連携

本部事務機構 情報部 デジタル変革推進課

全学から志願し参加



学内公募による業務のDX推進
プロジェクト・チーム

東北大学オンライン事務化宣言 2020年6月

「New Normal時代のワークスタイル変革」を実現するため
全学公募により総勢48名が参画

男	女	計	平均年齢
36人	12人	48人	36.1歳



学内公募による業務のDX推進プロジェクト・チーム



東北大学オンライン事務化宣言 2020年6月
「New Normal時代のワークスタイル変革」
を実現するため全学公募により総勢48名が参画

学生へのサービス向上



教員の研究時間確保



魅力ある職場環境



DXによる先導的な業務改革を短期的スパンで集中的かつ戦略的に実行し、
ニューノーマル時代に相応しい、教育・研究環境の実現と構成員にとって
魅力ある職場環境を創生する



業務のDX推進プロジェクト・チーム

The Admissions Office
Offering the choice of colleges from the world map

入試のDX
出願手続をWebで完結し
入試ミス防止と入試業務の効率化

Tableau

東北大学ダッシュボード
DWHとBIにより大学経営が見える化

経営見える化

Garoon

電子決裁・電子文書保存・電子署名
書類に縛られない仕事の進め方を可能に

印鑑フリー

DocuSign

Google Drive

業務のDX推進プロジェクト・チーム

ニューノーマル時代に相応しい教育・研究環境の実現と
構成員にとって魅力ある職場環境を創成する

RPA
膨大な繰り返し作業は
ロボットにおまかせ

AIメンタルケアサポーター
オンラインチャットボットを
学生・教職員のメンタルケアに活用

窓口フリー

働き場所フリー

TOHK talk

メタバース
仮想空間に広がる
無限の可能性

AIチャットボット
各種窓口が手元に

LegalForce

契約書AIレビューサービス
専門的な業務を分担することができる

Windows 10
VMware Horizon
chromebook

仮想クライアント+GoogleChromebook
いつでも・どこでも安全に仕事ができる

クラウドPBX
オフィスの電話がポケットの中に



「窓口フリー」の軌跡

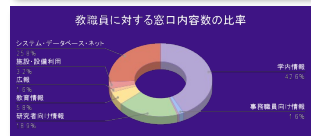
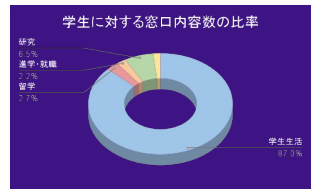
窓口フリー

対面を重視したオンラインサービスの拡充により、窓口に来なくとも ほぼ全ての手続きをオンラインで行うことができる ことを目指すとともに、大学の業務へのAI実装を積極的かつ挑戦的に推進する

2020年

2021年

2022年



本学の全ての窓口業務の徹底的な洗い出しを実施



12月 AIチャットボットのキャラクターを全学公募により決定



2月 AIチャットボットのキャラクター表彰式をメタバース上で挙行政



3月 リーガルフォース導入 法務関連業務を年間1,000時間削減



5月 大学院入試の手続きをオンライン化

12月 業務のDX推進プロジェクト・チームの成果展示会をメタバース上で実施



3月 ところどころコンディショナー導入 学生・教職員のウェルビーイングをサポート



2月 AIナレーターVOICEPEAK導入 会議資料・講演資料を動画化





窓口フリーの取り組み

生成系AIの導入

法人 GAI

Powered by GPT-4

誰に向けて: 学内のチームメンバー
目的: 学内メンバーに簡単にチャットで伝えるために、要約したい

全国の大学に先駆けてChatGPTを導入

この際、本学では全国の大学に先駆けてChatGPTを導入し、業務のDXをさらに加速する「コネクテッドコーポレーション」を推進する「DX推進プロジェクト」が中心となり、AIやメンバーなど、今後ますます進展が期待されるデジタル分野において、教育や研究活動を支援するための取り組みを行っています。

この際、本学では全国の大学に先駆けてChatGPTを導入し、業務のDXをさらに加速させます。ChatGPTは、OpenAI社が開発した人工知能（AI）であり、人間に近い自然な会話を行うことができるため、AIと協力してアイデアを生み出したり、文章を簡単に多言語に翻訳することができます。具体的な活用例としては、報告書やニュース原案作成などにChatGPTを活用するとともに、既に本学で導入しているRPAやノーコード・ローコードのDXツールと組み合わせ、より一層DX化を推進する活用方法に展開します。例えば、本学が発出したプレスリリースを基に、ChatGPTを活用してニュース原稿を作成し、AIレクターが読み上げること、新たな音声・動画メディアの作成を検討しています。

この度導入したサービスには、個人情報等の漏洩防止・保護機能が実装されているため、情報の取り扱いには安全性を確保しています。さらに、本学ではChatGPTへの入力情報が二次利用されない方式で利用し、機密情報や個人情報情報は取り扱わないことを徹底します。

今後は、学内運用・サポート体制について整備しつつ、教育・研究への応用展開も視野に利活用を促進する予定です。

体裁:
要点が変わるよう、略語も使って簡潔に。
出力形式:
情報の内容を、300文字以内で要点をまとめてください。
2023/5/15 15:56:22

東北大が若手職員主導でDX推進プロジェクトを展開中。AI技術のChatGPTを導入し、業務効率化、教育・研究支援を促進。報告書作成や多言語翻訳、動画メディア制作も検討中。個人情報保護機能が実装され、セキュリティ対策も万全。今後、教育・研究への応用も視野に活用促進。

ご質問をどうぞ。

約200名（事務職員・技術職員・教員）が利用

今後は、学内運用・サポート体制について整備しつつ、教育・研究への応用展開も視野に利活用促進を予定

これまでの実績・成果と組み合わせることによりDXをさらに加速

RPA

業務時間削減見込（年間）
102,008 時間

× ChatGPT

RPAフロー作成自動化

ノーコード・ローコード

業務アプリを内製

× ChatGPT

業務アプリ作成支援

CRM

Sansanに登録した名刺の件数
7,743 件
※2023年4月時点

× ChatGPT

イベント周知キャッチコピー作成

活用研修を実施

MAKOTO PRIME

実際の部署別活用法（マネジメント）

部署	ChatGPTの活用方法
経営者・役員	<ul style="list-style-type: none"> 意思決定サポート（メリデメ洗い出し等） 戦略立案・メンター役 ビジネスアイデア出し スピーチやプレゼンの作成
経営企画	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画ドラフトの策定 企画書・申請書のドラフト作成 経営分析（SWOT、PEST、バリューチェーン等） 市場調査のサポート
マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト管理サポート（WBS・タスク分解、ネクストアクション、スケジュール、担当割） 1on1やチーム課題への助言 会議のアジェンダ出し

・常に傍らに参謀・助手としておいておき、愛でるべし。高度な使い方を追及するほど、価値が出る領域。

・経営課題の発見および解決に際して、戦略コンサルが用いるようなフレームワークを、簡易的にChatGPTに作ってもらうことも可能。

・これまで、無かった業務ができるようになる向上できる可

学内外から約900名の教職員・学生が受講



「印鑑フリー」の軌跡

印鑑フリー

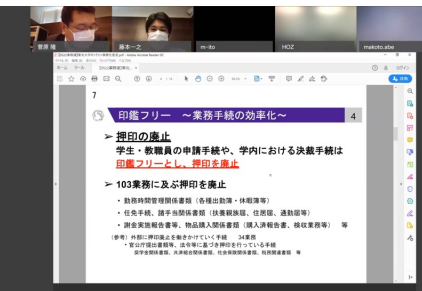
各種手続きにおける押印を廃止するとともに、電子決裁導入等によりアーカイブは紙からデジタルデータに置き換え、業務効率を格段に向上させる等、「行政サービスのオンライン化実施の三原則」に則ったDXを推進する

2020年

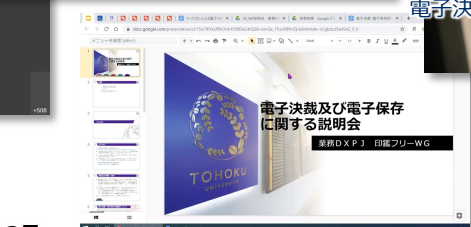
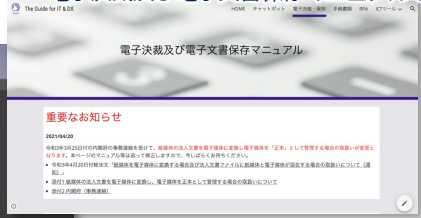
2021年

2022年

6月
押印廃止に関する説明会
学内の押印を原則全廃



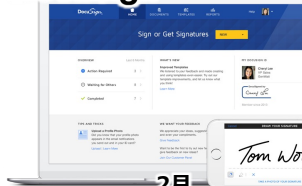
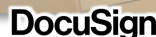
3月
電子決裁及び電子文書保存マニュアルを整備



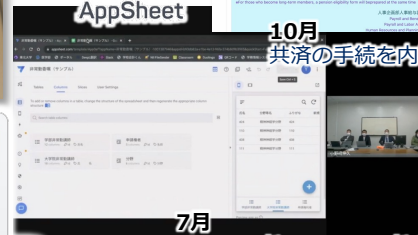
3月
電子決裁及び電子文書保存に関する説明会を実施



4月
電子決裁及び電子文書保存の運用を開始



2月
電子署名ソフトウェアを導入



7月
ノーコード・ローコードツールの業務への実装を開始

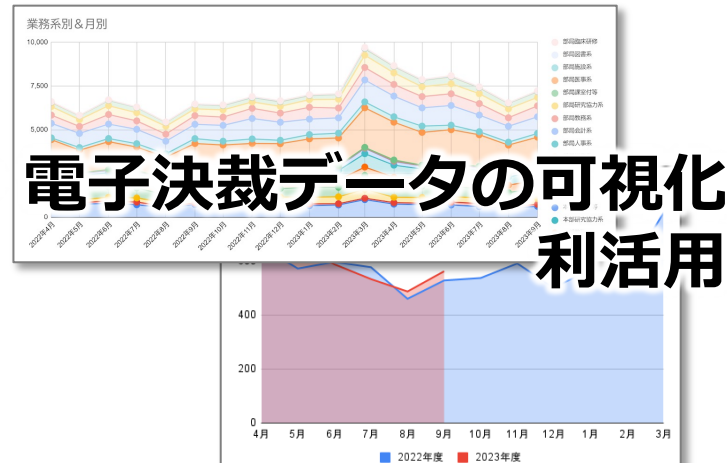


10月
共有の手続を内製アプリで電子化



「印鑑フリー」の取り組み

電子決裁・電子文書保存の更なる普及



申請業務の電子化

東北大学
TOHOKU UNIVERSITY

投票アプリ / Voting Apps

電子投票アプリ内製

投票 / Vote

ワークフロー化

- 会議費支出伺
- 謝金支出伺

総長選考における候補者の推薦手続き
投票率アップ・約700時間削減

原課主導にも波及

年末調整関連申告

HOME 申告書メニュー ログアウト

2024年: 承認済

保険料控除申告書 承認済

住宅ローン控除申告書 申請不済

年末調整システム
全学導入



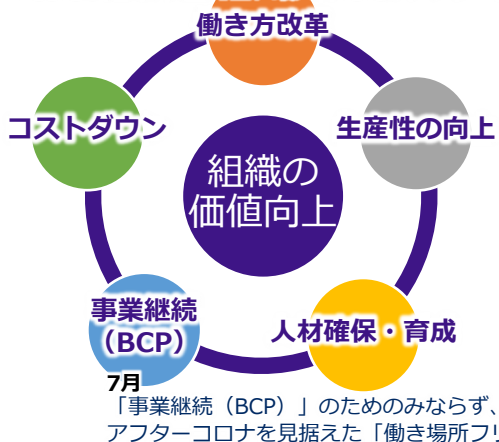
「働き場所フリー」の軌跡

働き場所フリー

東北大学における「働き場所フリー」の定義を明確化し、その実現のため ハード面（情報基盤等）整備 と ソフト面（規程・運用）整備 の双方向からの改革を推進

2020年

4月
既存の仮想クライアントを活用し
緊急事態宣言直後からテレワーク実施
100%の職員が実施可能、最大約70%がテレワークを実施



7月
「事業継続 (BCP)」のためのみならず、
アフターコロナを見据えた「働き場所フリー」を定義

2021年

4月
「テレワーク」「フレックスタイム」の制度化



業務時間を2021年は年間81,067時間、2022年は年間102,008時間削減

2022年



働き方の選択肢として職員に定着し
必要になった際にいつでも利用出来る制度であって欲しいと思います。



制度を活用した職員のモデルケースを動画で紹介し
全学の職員に向けて制度利用を後押し



「働き場所フリー」の取り組み紹介

更なるハード面の整備に向けて

これまで ⇒ テレワークに係る業務環境を整備

これから ⇒ 事務室に係る業務環境を整備

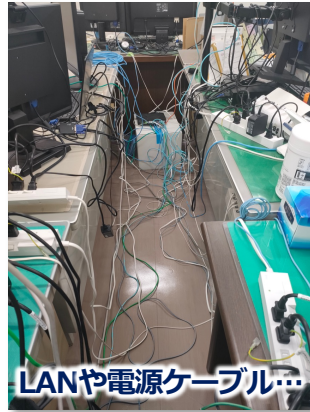
これまで

これから

テレワークに向けた環境整備



問題



Wireless-Borderless-Limitless

スマートな業務環境に向けて



Wi-Fi&内線アプリの導入





「経営の見える化」の軌跡

経営の見える化

学内にあるあらゆる 情報を集約・統合 し、大学の アクティビティの見える化 を行うことで、
東北大学ビジョン2030 コネクテッドユニバーシティ戦略 の一環である「データ活用による大学経営の高度化」を実現する

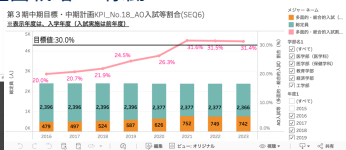
2019年

2020年

2021年

2022年

3月 FUJITSU + a b l e a u
Unified-One 統合データベースを導入
経営戦略DB稼働



12月

経営戦略DB構築プロジェクト・チーム発足
本学を取り巻く各種KPIの算出根拠を明確化



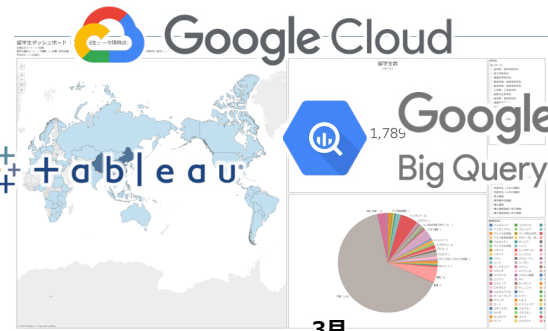
人事三本柱 (女性・外国人・若手教員)

10月

東北大学ダッシュボード稼働

Google Workspace

3月
東北大学DXナビゲーションにて
「データで見る東北大学」を公開



3月

フルクラウドによる
次世代経営戦略DB稼働

kaonavi

sansan

8月

Sansan導入
名刺データ登録開始

11月

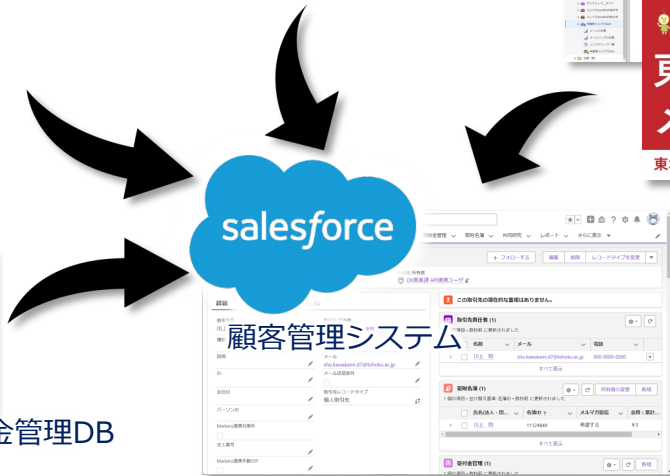
カオナビ導入



「経営の見える化」の取り組み紹介

CRM (カスタマーリレーションシップマネジメント) の取り組みについて

東北大学ビジョン2030におけるステークホルダーエンゲージメントの重視
 ⇒民間企業、寄附者などのステークホルダーに対して、個々のアクティビティに応じた適切なコミュニケーション
 ⇒名刺管理DB、MA*ツール等、複数のシステムを組み合わせ、CRMシステムを整備
 *MAとはMarketingAutomationの略。マーケティング活動を自動化する概念のこと。



今後に向けて

- ・全学での情報共有
- ・プッシュ型セールス





業務のDX推進ロードマップ

2020年度 (4チーム)

2021年度 (14チーム)

2022年度 (16チーム)

経営の見える化



印鑑フリーWG



働き場所フリーWG



窓口フリーWG



経営戦略DBチーム
教学IRチーム

電子決裁・電子保存チーム
申請業務の電子化チーム
電子署名チーム DocuSign

働き場所フリーチーム
クラウドPBXチーム VMware Horizon

RPAチーム
窓口改革チーム LegalForce

教務事務DXチーム The Admissions Office

マイナンバーチーム

潜在的業務改革チーム

ICT研修チーム

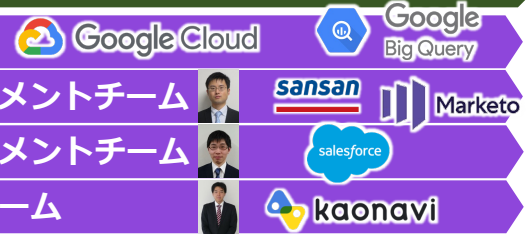
プロモーションチーム

NEW ステークホルダーマネジメントチーム
NEW エンrollmentマネジメントチーム
NEW タレントマネジメントチーム

印鑑フリーチーム
ノーコード・ローコードチーム AppSheet

chromebook
オンヤク
TOHK talk

NEW AIチーム
NEW メタバースチーム



POINT 自ら立候補した若きチームリーダーの活躍 (平均34.4歳)



- 主要マイルストーン
- 2020年6月
オンライン事務化宣言
 - 2020年7月
コネクテッドユニバーシティ戦略発表
 - 2020年7月
業務のDX推進プロジェクト始動



業務のDX推進プロジェクト・チームメンバーは、全事務系職員の **約5%**



2020年4月～2023年4月の3カ年に昇任した職員に占める

業務のDX推進プロジェクト・チームメンバーの割合は、 **約20%**

**スキルのみならずマインドも含め
大学経営の中枢を担っていく人材を育成**



PURPOSE : ニューノーマル時代に相応しい教育・研究環境の実現

DXによる先導的な業務改革を短期的スパンで集中的かつ戦略的に実行し、ニューノーマル時代に相応しい、教育・研究環境の実現と構成員にとって魅力ある職場環境を創生する。

私達は、これらを実現するため、理想的なプラットフォームを整え、人作り・解決策作り・仕組作りを通じて、参加機関の発展と、それによって世界・社会に貢献するコミュニティを目指します。



SYSTEM : Shared Success, Multiplied Impact.

フラットなパートナーシップを構築し、信頼・成果・繋がり・知識・専門性を共有し、これらの相乗効果を引き出します。

さらに、メンバー各機関の成長を支えるための多様なシステムを整備し、新世代のDXコミュニティとして進化し続けます。



BENEFITS : 有機的なソリューションプールの利活用

DX推進に効く事例の利活用

DXやそれに伴うBXの事例が多数存在します。
それらを利活用して各機関のDX推進にお役立てください。



共創による新たな可能性

教育研究機関に加え、企業も参画しています。
組織の枠を超えた共創によるあらたな可能性があります。

機関固有の悩み・解決策の共有

国公立問わず多くの機関が参画しています。
組織固有の悩みや解決策を共有できます。





MEMBERS : 参加機関 (2023年12月現在)



秋田大学
Akita University



弘前大学



国立大学法人
岩手大学
IWATE UNIVERSITY



山形大学
Yamagata University



国立大学法人
宮城教育大学



国立大学法人
福島大学
Fukushima University



公立大学法人
宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY



東北医科薬科大学
TOHOKU MEDICAL AND PHARMACEUTICAL UNIVERSITY



神戸大学



KAGAWA
UNIVERSITY

香川大学



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



保育・幼児教育の
大阪キリスト教短期大学
Osaka Christian College



京都大学
KYOTO UNIVERSITY



MAKOTO
Prime

KEYWARE
SOLUTIONS



富士通 Japan

α FUSION



CONTACT : お問い合わせ・参加希望



お問い合わせや参加希望については、どうぞお気軽に、こちらからご連絡ください。
みなさまとお会いできることを楽しみにしております。



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学 DX

🔍 検索

